

観 点 ／ 番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	2・東書	第1・2・3学年	書写・002-72	新編 新しい書写 一・二・三年
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等	○ 硬筆については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～字形と配列を整える書き方を確かめて書いたり、話を聞きながらメモを取るときに気を付けることを考えたりする活動を通して、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して楷書で書く活動 第2学年～行書の様々な書き方を漢字表などで調べて書いたり、楷書と行書を使い分けるには、どのような観点が必要かを考えたりする活動を通して、目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書く活動 第3学年～国語科で学習する文学作品などの一説を書いたり、身の回りの文字の目的とそれに応じた工夫を考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く活動 ○ 毛筆については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～点画の連続について、形の特徴などに気を付けて書いたり、楷書と比べながら点画の方向や形の変化を考えて書いたりする活動を通して、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書く活動 第2学年～点画の省略に気を付けて書いたり、楷書と比べながら行書に調和する仮名の特徴を考えて書いたりする活動を通して、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く活動 第3学年～自分で選んだ言葉を書き初めで書いたり、伝えたい思いを効果的に表現するための工夫を考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く活動 ○ 硬筆と毛筆の関連については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～点画の書き方と字形の整え方、文字の大きさと配列など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動 第2学年～点画の省略や筆順の変化、行書に調和する仮名など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動 第3学年～これまでの毛筆の学習を生かし、「思いを文字で表そう」において、卒業に向けた作品を筆記具や文字の大きさを工夫して書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「書写のかぎ」を参考にして、仮名を整えて書くために気を付けることを考えたり、仮名の書き方と字形の特徴について理解したことを自分の書いた文字で振り返ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動			

	第2学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「書写のかぎ」を参考にして、行書と仮名の調和について考えたり、どのように行書と仮名が調和しているのかを筆圧の変化、筆脈の用語を使って説明したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動 第3学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「書写のかぎ」を参考にして、現代につながる文字の役割について考えたり、文字が果たしてきた役割や現代とのつながりについて話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～楷書について、点画の書き方と字形の整え方を確かめた後に、仮名の書き方と字形の特徴を理解して書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～行書について、点画の省略や形の特徴などを確かめた後に、行書と仮名の調和について理解して書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～手書き文字の特徴を確かめた後に、ノートの効果的な書き方について理解したことを話し合う活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～硬筆の指導事項アは9ページ、指導事項イは8ページ、毛筆の指導事項アは8ページ、指導事項イは7ページである。 第2学年～硬筆の指導事項アは10ページ、指導事項イは6ページ、毛筆の指導事項アは9ページ、指導事項イは4ページである。 第3学年～硬筆の指導事項アは7ページ、毛筆の指導事項は4ページである。 ※総ページ数は146ページで、前回とほぼ同様となっている。
使用上の配慮等	○ お礼状や防災パンフレットの書き方など、国語や他教科における学習と関連を図った教材（第1，2学年）や、文字の歴史や使われ方など、文字文化についてのコラム（全学年）を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 様々な書式とそれらを生かす場面について学ぶ題材「生活に広げよう」（全学年）や、学校生活だけではなく生涯にわたって社会生活の中で使用される様々な書式について学べる「書写活用ブック」を掲載するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 振り仮名などの小さい文字でも読みやすいカラーユニバーサルデザインフォントを使用したり、全ての生徒の色覚特性に適応するようなデザインにしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、手書き文字と活字の学習において、「北海道」の手本が示されており、日常の自分の住所を書く場面に生かすことができるよう工夫がなされている。 ○ ICTの活用については、目次や各教材に二次元コードが掲載されており、説明がついた毛筆で書く際の手本となる運筆の動画のほか、書写テストや様々な書式・文例等を参考にできる書写活用ブックなど、学習や自学自習に活用できるよう工夫がなされている。

	○ 小中連携による指導については、「はじめに」において、基本点画の筆使いや字形と配列など、小学校の学びを振り返る学習から中学校の書写学習につなげるよう配慮がなされている。
本市生徒の 学習の状況等	○ 毛筆等の学習で身に付けた力を、日常の書く活動へ活用できるよう、手紙や年賀状、依頼状、本のポップ、授業のノート、ポスター、新聞、原稿用紙などの効果的な書き方を題材として取り上げた「生活に広げよう」を設定するなどの工夫がなされている。 ○ 生徒が見通しや目的意識をもって学習に取り組むことができるよう、巻頭に「書写の学習の進め方」を収録するとともに、教材ごとに、自ら課題を見付け、目的を明確にして学習に取り組むために硬筆から課題を発見する「見つけよう」や、課題解決の見通しを持つことができる「書写のかぎ」を設定するなどの工夫がなされている。 ○ 生徒が身に付けた書写の力を自覚できるよう、毛筆で書いた後に、学習内容を生かしてほかの文字を硬筆で書く「生かそう」や、学年の学習内容を確認できる「書写テストに挑戦！」を設定するなどの工夫がなされている。
その他	○ 行書の学習の導入については、動きに着目して4つのパターンに整理してから、点画の連続や点画の変化について題材で学習した後、様々なパターンについて硬筆によるまとめで定着を図る配慮がなされている。

観 点 ／ 番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	15・三省堂	第1・2・3学年	書写・015-72	現代の書写一・二・三
取扱い内容 学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	○ 硬筆については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～点画の組み立てに気を付けて書いたり、紙面全体における記事などの配置を考えたりする活動を通して、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して楷書で書く活動 第2学年～点画の省略や筆順の変化に気を付けて書いたり、目的や必要に応じて楷書と行書の使い分けを考えたりする活動を通して、目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書く活動 第3学年～これまで学んだことを生かして身のまわりの文字を書いたり、身のまわりの生活の中から印象に残った文字の工夫や効果を考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く活動 ○ 毛筆については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～点画や筆脈の連続に気を付けて書いたり、楷書と比べて点画の形や方向の変化がどこに表れているかを考えて書いたりする活動を通して、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書く活動 第2学年～点画の省略に気を付けて書いたり、楷書に調和する仮名と比べて形の違いがどこに表れているかを考えて書いたりする活動を通して、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く活動 第3学年～中学校生活の中で出会ったお気に入りの言葉を書いたり、文字の大きさや書く位置、書体などを考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く活動 ○ 硬筆と毛筆の関連については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～文字の大きさと配列、点画の形や方向の変化など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動 第2学年～点画の省略や筆順の変化、行書に調和する仮名など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動 第3学年～これまでの毛筆の学習を生かし、「名言集を作ろう」において、紙の大きさ・色・素材、筆記具などを決めて書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「書き方を学ぼう」を参考にして、楷書と比べて点画の丸みがどこにあるかを考えたり、点画の丸みを理解して書くことができたかを振り返ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動			

	第2学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「書き方を学ぼう」を参考にして、楷書と比べて筆順がどのように変化しているかを考えたり、筆順の変化を理解して書くことができたかを振り返ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動 第3学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、社会で活躍する手書き文字の達人の紹介を参考にして、効果的に文字を書くことについて考えたり、文字の魅力はどのようなところかを話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～楷書について、字形の整え方と筆使いを確かめた後に、仮名の字形と筆使いを確かめて書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～行書について、点画の省略や筆順の変化などを確かめた後に、行書と仮名の調和を意識して書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～手書き文字や活字の特徴を確かめた後に、効果的に文字を書くことの必要性について考える活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～硬筆の指導事項アは5ページ、指導事項イは4ページ、毛筆の指導事項アは7ページ、指導事項イは7ページである。 第2学年～硬筆の指導事項アは4ページ、指導事項イは3ページ、毛筆の指導事項アは8ページ、指導事項イは2ページである。 第3学年～硬筆の指導事項アは3ページ、毛筆の指導事項は2ページである。 ※総ページ数は122ページで、前回と比べて約6%の減である。
使用上の配慮等	○ グループ新聞や地域の魅力をまとめた情報誌の書き方など、国語や他教科における学習と関連を図った教材（第1，2学年）や、文字を手書きすることの意義を見つめ直す教材（第1，3学年）を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 学習した内容を他教材や他教科・社会生活で活用できるようにした教材「やってみよう」（全学年）や、日常生活・社会生活の中で必要となる書式を確認したり、伝統文化に親しむ資料にふれたりすることができるよう「資料編」を掲載するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 学習上重要な項目は大きな文字や目立つフォントで示したり、色覚の特性を考慮して、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、都道府県の題材において、「北海道」の手本が示され、硬筆でなぞる活動が設定されており、日常の自分の住所を書く場面に生かすことができるよう工夫がなされている。 ○ ICTの活用については、各教材に解説動画の二次元コードが掲載されており、毛筆の教材文字と小筆の運筆動画、補充教材などを学習に活用できるよう工夫されている。

	○ 小中連携による指導については、「学習のはじめに」において、筆・鉛筆の持ち方や姿勢，基本点画の筆使いなどを振り返りながら，中学校の書写の学習につなげるよう配慮がなされている。
本市生徒の 学習の状況等	○ 毛筆等の学習で身に付けた力を，日常の書く活動へ活用できるよう，はがきや手紙，レポート，グループ新聞，礼状，情報誌，原稿用紙などの効果的な書き方を題材として取り上げた「書いて身に付けよう」「やってみよう」を設定するなどの工夫がなされている。 ○ 生徒が見通しや目的意識をもって学習に取り組むことができるよう，巻頭に「この教科書の使い方」を収録するとともに，題材ごとに，目標を明確に示すとともに，課題解決の見通しを持つことができるよう書き方のポイントを示すなどの工夫がなされている。 ○ 生徒が身に付けた書写の力を自覚できるよう，単元ごとにまとめとして，学習内容を生かしてほかの文字を硬筆で繰り返し書く「書いて身に付けよう」を設定するとともに，第2学年末にそれまでの学びを確認できる「学力テスト問題」を設定するなどの工夫がなされている。
その他	○ 行書の学習の導入については，点画の連続などの特徴を理解してから，点画の丸みや点画の連続などについて題材で学習した後，様々な特徴について硬筆によるまとめで定着を図る配慮がなされている。

観 点 ／ 番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	17・教出	第1・2・3学年	書写・017-72	中学書写
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	○ 硬筆については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～字形の整え方と筆順のきまりを確かめて書いたり、ノートを読みやすく速く書くためにはどうしたらよいかを考えたりする活動を通して、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して楷書で書く活動 第2学年～行書の部分の書き方を確認して書いたり、行書と仮名の調和のさせ方と速く書きやすくするための工夫を考えたりする活動を通して、目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書く活動 第3学年～行書と仮名の調和や配列を確かめて書いたり、身のまわりで見かける文字の表現効果を考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く活動 ○ 毛筆については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～点画の連続と形の変化に気を付けて書いたり、楷書と比べて点画の連続や形が変化している部分はどこかを考えて書いたりする活動を通して、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書く活動 第2学年～点画の省略に気を付けて書いたり、漢字と仮名の大きさ、配列を考えて書いたりする活動を通して、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く活動 第3学年～点画の連続と配列に気を付けて書いたり、城跡の文字の書体による表現効果を考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く活動 ○ 硬筆と毛筆の関連については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～点画の筆使いと字形、楷書に調和する仮名の筆使いなど、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動 第2学年～点画の省略や筆順の変化、行書に調和する仮名の書き方など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動 第3学年～これまでの毛筆の学習を生かし、「三年間の学習の成果を生かそう」において、書体や筆記具などを工夫して中学校の魅力が伝わるリーフレットを書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「考えよう」を参考にして、楷書と仮名を調和させるための書き方を考えたり、漢字と仮名の大きさ、文字の中心、字間、余白について話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動			

	第2学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「考えよう」を参考にして、漢字の行書の連続、省略、変化と仮名の調和を考えたり、行書と仮名の調和や配列に気を付けて硬筆で書いたりするなど、考えを広げたり深めたりする活動 第3学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「考えよう」を参考にして、自分で取材した文字や教科書の写真の文字について印象や表現効果を考えたり、考えた内容を取材レポートにまとめ発表したりするなど、考えを広げたり深めたりする活動
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～楷書の点画の筆使いと字形を確かめた後に、楷書に調和する仮名の筆使いを理解して書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～行書の点画の省略や筆順の変化などを確かめた後に、行書に調和する仮名の筆使いを理解して書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～行書と仮名の調和について、漢字と仮名の大きさ、配列を確かめた後に、俳句を小筆または、筆ペンで書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～硬筆の指導事項アは21ページ、指導事項イは18ページ、毛筆の指導事項アは16ページ、指導事項イは19ページである。 第2学年～硬筆の指導事項アは8ページ、指導事項イは8ページ、毛筆の指導事項アは10ページ、指導事項イは7ページである。 第3学年～硬筆の指導事項アは5ページ、毛筆の指導事項は6ページである。 ※総ページ数は146ページで、前回とほぼ同様となっている。
使用上の配慮等	○ お薦めの本の帯や新聞の書き方など、国語や他教科における学習と関連を図った教材（第1，2学年）や、身のまわりで見られる書などの味わい深さを実感できるコラム（全学年）を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 他教科や日常生活に活用できるよう関連を図った教材「学習を生かして書く」（全学年）や、中学校生活や社会生活に必要な手紙、封筒、一筆箋、年賀状、はがきなどの書き方を取り扱った「書式の教室」を掲載するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用したり、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインにしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、身の回りで様々な書体が使われている例として、「神居古潭」の石碑が写真で示されているほか、都道府県の題材において「北海道」の手本が示され、日常の自分の住所を書く場面に生かすことができるよう工夫がなされている。 ○ ICTの活用については、「学習の進め方」や各教材に二次元コードが「まなびリンク」として掲載されており、毛筆と硬筆の運筆動画や教材の画像などにより、書写の授業に加えて、日常の硬筆での書字にも活用できるよう工夫されている。

	○ 小中連携による指導については、基本点画や筆圧、穂先の動きなどの学習を1学年の最初で復習し、中学校の書写の学習につなげるよう配慮がなされている。
本市生徒の 学習の状況等	○ 毛筆等の学習で身に付けた力を、日常の書く活動へ活用できるよう、冒頭でノート書き方について学ぶほか、レポート、ポップ、ポスター、新聞、案内状などの効果的な書く題材を設定するとともに、手紙や電子メール、願書や志願理由書などの書き方を示した「書式の教室」を設定するなどの工夫がなされている。 ○ 生徒が見通しや目的意識をもって学習に取り組むことができるよう、巻頭に「学習の進め方」を収録するとともに、題材ごとに、自ら課題を見付け、目標を明確にして学習に取り組むための硬筆による「試し書き」や、課題解決の見通しをもたせる「考えよう」を設定するなどの工夫がなされている。 ○ 生徒が身に付けた書写の力を自覚できるよう、毛筆で学んだ後に学習内容を生かしてほかの文字を硬筆で書く「まとめ書きと応用」や、単元ごとに学びを生かして硬筆で書く「学習を生かして書く」を設定するとともに、3年間の学習内容を確認する「書写テストで確認」を設定するなどの工夫がなされている。
その他	○ 行書の学習の導入については、点画の連続などの特徴を理解し、毛筆により連続の動きを試してから、点画の連続や変化、省略について題材で学習した後、様々な特徴について硬筆によるまとめで定着を図る配慮がなされている。

観 点 ／ 番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	38・光村	第1・2・3学年	書写・038-72	中学書写一・二・三年
取扱い内容 学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	○ 硬筆については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～文字の外形や中心に気を付けて書いたり、終筆の方向と形の変化を考えたりする活動を通して、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して楷書で書く活動 第2学年～点画の省略に気を付けて書いたり、場面に応じた楷書と行書の使い分けを考えたりする活動を通して、目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書く活動 第3学年～書写の学びを生かしながらポスターや看板を書いたり、手書き文字のよさを考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く活動 ○ 毛筆については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～点画の変化に気を付けて書いたり、楷書と比べて点画が変化しているところを考えて書いたりする活動を通して、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書く活動 第2学年～筆順の変化を理解して書いたり、行書と仮名の調和を考えて書いたりする活動を通して、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く活動 第3学年～三年間で学習したことを振り返り、自分の課題を確かめて書いたり、未来の自分をイメージして自分の名前をどのように書くかを考えたりする活動を通して、文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く活動 ○ 硬筆と毛筆の関連については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～漢字を構成する点画の種類と筆使い、点画の変化や連続など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動 第2学年～点画の省略や筆順の変化、行書と仮名の調和など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動 第3学年～これまでの毛筆の学習を生かし、「防災フェスタを開こう」において、テーマを決め、集めた情報をもとにポスターや看板などを書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「学びのカギ」を参考にして、楷書と行書を比べて点画がどのように変化しているかを考えたり、点画の変化について学習したことを生かして硬筆で書いたりするなど、考えを広げたり深めたりする活動			

	第2学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「学びのカギ」を参考にして、楷書と行書を比べて点画が省略されているところを考えたり、点画が省略される理由を話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動 第3学年～「目標」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「学習の進め方」を参考にして、身の回りには、どのような文字があるかを考えたり、文字から受ける印象や、気付いたことを話し合ったりするなど、考えを広げたり深めたりする活動
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～漢字を構成する点画の種類と筆使いを確かめた後に、楷書に調和する仮名の筆使いや字形を確かめて書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～行書について、点画の省略や筆順の変化などを確かめた後に、行書に調和する仮名の特徴を確かめて書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～身の回りには様々な文字があることを確かめた後に、文字の使い分けや効果について気付いたことを書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～硬筆の指導事項アは8ページ、指導事項イは6ページ、毛筆の指導事項アは6ページ、指導事項イは4ページである。 第2学年～硬筆の指導事項アは9ページ、指導事項イは4ページ、毛筆の指導事項アは6ページ、指導事項イは1ページである。 第3学年～硬筆の指導事項アは12ページ、毛筆の指導事項は7ページである。 ※総ページ数は166ページで、前回と比べて約5%の増である。
使用上の配慮等	○ 集めた情報をまとめたノートやポップの書き方など、国語や他教科における学習と関連を図った教材（第1，2学年）や、文字や文字文化への理解・関心を高める教材（第2，3学年）を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 書写で身に付けた力を日常生活に生かせるよう国語や他教科等で活用できる教材（全学年）や手紙やはがき，原稿用紙，通信文等の書式を整理して示した「日常で役立つ書式」を掲載するなど，生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 読みやすさを考慮して独自に開発したオリジナルの教科書体を使用したり，複数の色を組み合わせるときには，色覚の多様性に配慮し，誰もが識別できる配色を採用したりするとともに，1人1台端末を活用した学習活動として，二次元コードを掲載するなど，使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については，行書の活用の題材において，「カムイ・ユーカラ」のポップが示されているほか，都道府県の題材において「北海道」と硬筆で書く活動が示されており，日常の自分の住所を書く場面に生かすことができるよう工夫がなされている。 ○ ICTの活用については，各教材に二次元コードが掲載されており，姿勢や筆記具の持ち方，書写体操の動画や，様々な視点からの毛筆の運筆動画のほか，文字文化等を学ぶアニメーションなどを学習に活用できるよう工夫されている。

	○ 小中連携による指導については、小学校で学習してきた「基本点画」「筆圧」「穂先の動き」などの学習を第1学年の最初で復習できるように配慮がなされている。
本市生徒の 学習の状況等	○ 単元の学習で身に付けた書写の力を、日常の書く活動へ活用できるよう、ノートのとめ方、新聞、リーフレット、はがきや手紙、原稿用紙などの効果的な書き方を題材として取り上げた小単元を設定するとともに、手紙や通信文、原稿用紙などの書き方を示した「日常に役立つ書式」を設定するなどの工夫がなされている。 ○ 生徒が見通しや目的意識をもって学習に取り組むことができるよう、巻頭に「中学書写スタートブック」を収録するとともに、題材ごとに、課題を明確にして学習に取り組むための「考えよう」や、課題解決の見通しをもつことができる「学びのカギ」を設定するなどの工夫がなされている。 ○ 生徒が身に付けた書写の力を自覚できるよう、毛筆で学んだ後に学習内容を生かしてほかの文字を硬筆で書く「生かそう」を設定するとともに、題材の学びを硬筆に生かして学びの成果を確認したり、中学校での学習内容を書写テストで確認したりする、別冊「書写ブック」を設定するなどの工夫がなされている。
その他	○ 行書の学習の導入については、点画の連続などの特徴を理解してから、点画の変化や点画の連続について題材で学習した後、様々な特徴について硬筆によるまとめで定着を図る配慮がなされている。